

# ニュースレター

**No.91**

2018年5月23日

## 目次

	ページ
<b>お知らせ</b>	
第15回 総会開催のお知らせ	1
<b>行事案内</b>	2
ホットスポットを体感しよう	
<b>行事報告</b>	
第17回 さがみ自然フォーラム	3
大地はダイナミックに動くものだ 箱根火山編	7
県内自然保護ニュース	
エコ10フェスタ ブース出展	7
神奈川県自然保護協会からのお知らせ	
第15回 総会議案書案	8

### 神奈川県自然保護協会 第15回総会のお知らせ

- 1 日時 2018年6月16日(土)  
10時30分より (開場 10時)
- 2 会場 神奈川県立歴史博物館講堂
- 3 日程
  - 10:00 開場
  - 10:30 総会開会  
開会挨拶 理事長  
来賓挨拶 県自然環境保全課長 山田 修様
  - 10:50 総会議事 (総会議案書は8頁に掲載)
  - 12:00 総会閉会

\* 来賓ご挨拶の中で、本年度の県自然保護施策に触れて頂く予定です。  
\* 総会終了後、昼食休憩後新装なった県立歴史博物館を案内見学させていただきます(有料: 通常入館料)

**このニュースレターには資格のある会員\*に  
出欠(委任状兼用)用はがきを同封しました。**

\* 2017年度以降の会費納入の方  
当日会費納入の受付をします。過去分をお払い頂ければ資格回復します。  
不明のことは事務局にお問い合わせください。



会場案内

(横浜市中区南仲通 5-60)

- みなとみらい線 「馬車道駅」から徒歩1分  
出口[5]馬車道口からエスカレーターをご利用になると便利です。
- JR 「桜木町」駅、または、「関内」駅北口から徒歩8分
- 市営地下鉄線 「関内駅」[9]番馬車道口から徒歩5分、「桜木町駅」から徒歩8分

NPO 神奈川県自然保護協会選定

## 生物多様性 ホットスポットを体感しよう !!

2018年 6月 9日 (土) 小雨実施

### 江の島の自然を訪ねて・・

集合・解散 9時30分 江の島 弁天橋際小公園集合 15:時00分 同解散予定

コース 弁天橋—聖天島—東町通り—モース記念碑—青銅鳥居—岩本  
楼裏手—西浦海岸—市民の家—裏参道—御岩屋通り—龍野ヶ  
岡自然の森 (昼食予定)—稚児ヶ淵—江の島岩屋—山ふたつ  
—亀ヶ岡広場—江の島神社 (辺津宮)—弁天橋

コース途中で外来植物の除去作業を予定しています。

案内 村上雄秀氏 (国際生態学センター上席研究員)、

神奈川県植物誌藤沢グループ浅野さん他

持ち物 弁当、飲み物、筆記用具、双眼鏡、ルーペ

参加費 1,000円 (保険料、資料代) 当日集金

定員 30名 (定員になり次第締め切り)

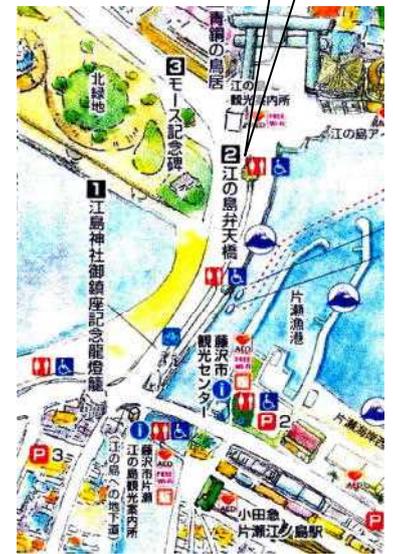
申込み 会員は氏名、会員外は氏名、住所、電話番号をお知らせください。

自然保護協会事務局 (青砥)

FAX 046-222-2356

Eメール [nacs-kana-office01@eco-kana.org](mailto:nacs-kana-office01@eco-kana.org)

URL <http://www.eco-kana.org>



集合場所：弁天橋を渡った島側

集合場所へは、小田急片瀬江ノ島駅、及び江ノ電江ノ島駅から徒歩20分、バス停は近くです。

見どころ 江の島の植生と植物相 (カテゴリーA・B)

バス：大船駅、藤沢駅発

- ① エノシマを冠する植物、江の島の固有種： エノシマキブシ、エノシマキイチゴ、エノシマススキ、エノシマヨメナ (ハマコンギク) など
- ② 江の島にみられる貴重種、希少種： スカシユリ、ウチワゴケ、オリヅルシダ、ニセジズネノキなど
- ③ 海浜植物： イソギク、トベラ、ハマダイコン、ハマヒルガオ、キケマン、ツルナなど
- ④ 森林植生と巨木、古木： 江の島神社の社叢林、龍野ヶ岡の自然、風衝植生など

### ホットスポット選定の3要件

- ① 地域における希少種・重要種・固有種が集中する地域
- ② 種の多様性 (密度) が高い地域
- ③ その地域が危機にさらされている地域。

カテゴリーA：希少種・レッドリスト集が集中して産する地域

カテゴリーB：神奈川県や地域の生物多様性保全上、特に重要な地域

# 第17回 さがみ自然フォーラム

2018年2月8日～12日 アミューあつぎ  
全期間を通して千人の参加がありました。

## 展示



入口の様子

ギャラリー1から3までつなげた会場で、各地で活動する団体、行政、企業に加えて、大学・高校・小学校による日頃の活動や研究成果の発表が行われました。

今回特に良かったのは、自然保護団体が保全活動をしているフィールドを大学生が研究のフィールドとして、その成果が活動団体に還元される実例が発表されたこと、それに企業や公的機関の参加が増えたことです。

また、発表内容の幅も広がり、例えばごみ問題が野生動物に与える脅威の展示から、私たちの街の中の生活と自然とのかかわりについて考えさせるものもありました。各団体等によるポスターを前にした説明も行われ、大勢の方々に聴いて頂きました。



小学校の発表例（愛甲小学校）



ポスターを前に説明を聞く



高等学校の発表例（光明学園）



マイクロプラスチックの害を訴える神奈川県野生動物救護連絡会



あつぎこどもの森公園は東京農大や明治大学生の研究フィールドになっています。左は発表の一部。

企業の環境活動



公的機関の活動

自然塾丹沢どん会のフィールドでは、東海大と慶應大の学生が活動しています。



行政機関



ご協力いただいた各方面の方々にお礼申し上げます。

展示 第2会場  
企画展「考えよう…外来生物」

第2会場（ギャラリー4）では企画展「考えよう…外来生物」パネルや標本の展示を行いました。これは10日に行われた、同名のシンポジウムと連動するものでした。



第2会場展示風景



パネリストの方々  
左から  
村上雄秀氏  
基調講演  
コーディネーター  
岸一弘氏



勝呂尚之氏  
葉山久世氏  
山口勇一氏



基調講演及び各パネリストからはじめのコメントは、レジュメ集にゆずり、質疑からの概要を掲載します。

(会場からパネリストへの質問)

葉山さんへ

カナダガンの絶滅作業から、一般化できる教訓はあるか。

A きちんと動物を飼うこと。

第2のカナダガンと危惧しているのがコブハクチョウだ。きちんと飼っているところでは翼を切って飛べない処置をしてあるが、そのような処置をしていないがとても多い。牛久沼、水戸の偕楽園、等のものは自由に外を飛んでいる。ひなも育てて、数が多くなりはじめいなくなったところに進出している。

卵を回収した後、なぜ擬卵をだかせるのか。

A 鳥は卵を他の動物に捕られたりして失うと産み足すことがので、孵化しない卵を抱かせる。。

山口さんへ

学校で PTA も一緒にオオキンケイギクの駆除をしている。この活動が他の地域に広がれば良いと思っている。日時を決めて市民、企業が一緒に活動できると良いと思う。

A 花を付けるのが5月から6月はじめなので、その時に行く。一度とってもまたでるものがあるので繰り返し根気よく行う事が大事。

(村上) 情報を流すことによって企業も参加してくれるようになるのではないかな。

(山口) 厚木市では自治会ぐるみで取り組んでいるところが何力所がある。スマホの GPS 機能を使い特定外来種のある位置で発信すると、市が全体の地図に表示するシステム、「写マップあつぎ」がある。

(会場の市会議員補足) 2017年12月から発展して、市民が生活面で、落書きとか、不法投棄などの通報にも使えるようになっている。

勝呂さんへ

オイカワなどの国内移入種への対処について

A 現在定着しているものもあり難しい問題。オイカワノ場合は漁業権魚種にもなっている。ケースバイケース。ミヤコタナゴなど希少種の生息池を作るようなときはだめ、相模川でブラックバスなどの駆除をするようなとき、オイカワは対象にならない。というような考えで仕方ない。難しいときは、淡水魚試験場が相談に乗る。

地域の議員に地域の課題として環境についての知識を伝える活動をしてはどうか。また、小中学校に環境についての特別授業を提案するのはどうか。

A (行政) 議員さん達は情報が欲しいと思っている。

併せて具体的に、どこをどうするというような提案が良い。行政に対しても、意見を寄せて欲しい。パブリックコメントの募集をしてもネットでは使えない人もいる。

自然保護系に関心の高い人は年配者に多いので意見がなかなか出てこないの、県の施策に反映しにくい。家族や仲間の若い人の協力を得てやって欲しい。

(学校) 学校については、パイプ役になる人がいると良い。一度つながるができれば、学校の中でも〇年はこの活動、のように引き継がれることが多い。

(司会) 環境についての特別授業は、学校の中で可能なのか？

(会場から) 茅ヶ崎の例

中学校で総合学習が広がった時期が合った。活動の中で先生と仲良くなり、その時の先生たちが全市に広がったのでいろいろな学校から要望が寄せられる。

ギンブナは基本雌性発生するためにクローン個体で雌個体が多く、特に関東では雄個体はほぼいないと文献で見ることがある。無性生殖のギンブナでも県内で遺伝子汚染が見られるのは地域によって遺伝子が異なるからか？

A ギンブナは本来は雌しかない。雌がドジョウとかコイだとかの精子の刺激で(純粋の受精とは違う)卵発生して、遺伝子には中に入らない。普通はメダカのように地域個体群に分化しているのが常識のようですが、フナ類は産業界であること、中間的な形態を持つものがあることなどで遺伝子的に守るべきものははっきりしないなどで難しい。

#### パネリスト皆さんへ

外来生物の問題は生物に興味の無い人にも関係がある。理解してもらうためにどんな策があるか。

A(岸) まじこのようなシンポジウムを開いたり、講座、講演会が大事。あとは野外での観察会や、外来種駆除のイベントを大々的にやるなど、様々な取り組みを継続的におこなう。

A(勝呂) 岸さんと同じ。子どもたち相手の観察会は有効。親がついて来るのがつくと親の方が夢中になっているようなことがあって、そのようなところから広がる可能性がある。

A(葉山) すごく難しいと思う。あきらめずに継続する事。カナダガンの場合も粘り強くお願いしてやっと首輪が付けられるようになった。繰り返しいろいろな方向から伝わった結果だと思う。

A(山口) 愛川町では住民提案型共同事業がある。自然の良いところで掲示をしたり観察会をする事業が認められた。町の広報などでイベントのお知らせをして集まった人に啓発活動をしている。

A(村上) 神奈川県自然保護協会では、レジュメに書いたように今年県内で重大な被害を及ぼすような外来種のリストをちくろかなと考えている。写真と、どのような所に生えているか、駆除の方法など発信したい。

#### 司会から岸さんへ

自然観察会で、子どもたちは昆虫には興味を持つが、植物はそうでない。昆虫を糸口にするのは良いのではないかな。

A 身近に外来種は多いので、観察会では必ず話題になる。カナダガンのように成功した例は他にないし、困難なのでどうしたら増えないようにできるのか、放さないなどの話をする。植物も他の動物との関係を絡めて話せば興味を持ってくれる。

#### ・口頭発表

2月11日、12日

ミュージックルーム 1

展示会場では、例年ポスター発表を行っていますが、展示団体が増えた分、2時間も立ち通しになるなど時間がかかり聴く人の負担が増すこと。団体の寄ってはパワポ等の機器を使った発表がしたい等のことから、昨年からは座席のある別会場での発表もすることにしました。今年はその2回目でしたが、趣旨が浸透せず、こちらでの発表は多くありませんでした。

発表団体紹介などの記載されたレジュメ集 会員には同封送付しました。会員外でご希望の方は連絡ください。

#### 質問への答はここまで

(話し合い。)

市民活動や、企業、行政へ情報を流すことについて、良い方法、アイデアはないか。

(県職員) 今は、SDGs などと言われ企業の関心は高くなってきている。そんな企業の取り組みの情報をわかりやすいようにまとめて頂いて、それを発信したり企業の方が活動している団体に来て意見交換したりすることが徐々に始まっている。行政は、発信したり大きな仕組みを作ったり、市民活動している人たちの気持ちを汲んで実現するようにつないでいったりしている。

(勝呂) 企業の内部、姿勢が求められるのではないか思っている。調査などの情報を流すとコンサルなどの企業の皆さんが参加してくれる。でもそれはボランティアで来てくれていて会社には言いにくいという。日曜日など代休が取れるとか理解があると良い。

(会場から)

ある企業がそれをしてくれたら言い事例として宣伝する。それによって他にも広がるようなことができればいい。

(東海大学生) 研究室に入っているいろいろな活動があることを知った。関われば興味が深まり楽しくなる。こちら側の人間としてはその第一段階をつくってあげるのが一番かなと思う。

(東海大学学生) 子どもの頃から自然境に触れる事が大事なかなと思う。

子どもだけで川に行くのは禁止されるとか、社会は子どもを環境から離す方向にうごいている。大人の管理の下でも、自然に触れる機会を増やしていく事が大事。子どもが親に経験を話せば生物に興味になかった親も関心を持つようになる。

(岸) 企業の参加と言うことで、各自治体に緑化推進協議会のようなものが組織されていると思う。普通は視察などでおわるのだが、これを研修会として外来種除去作業を位置づけるのは？委員さんは出張で仕事としてきている。企業に戻れば拡げてくれる役割を持つのでいいのではないかな。

(会場から)

企業では20年くらい前からCSRということで株主総会のレポートの中には書いている。ただし国内の企業の現場では関心が薄かった。外資系の会社で1社、世界の事業所の中で環境活動への取り組みを報告しなければならなかったので取り組みがあった。今は時代が違うので、県内の事業所に呼び掛ければこたえはどんどん返ってくると思う。

(司会;まとめ) 外来種問題は人間が作り出したことで、自然は解決してくれない。息の長い活動を皆さんと今後も続けていきたいと思う。

# 大地はダイナミックに動くものだ！！

＝ 今なお活動が続く 箱根火山の地史を目の当たりに ＝



大観山から中央火口丘を見る  
長尾峠から冠岳

2月28日、この時期心配された雪に妨げられることなく良い天気の中、実施できました。



轟音を上げて噴気吹き出る大涌谷

案内してくださったのは、箱根火山学の第一人者、県立温泉地学研究所、萬年一剛主任研究員（上の写真右から2人目）



長尾峠からの冠岳の風景は萬年先生お気に入りだそうです。

冠岳が山体崩壊を起こし、溶岩の道、火道が残ったのが冠岳

底倉で、早川溪谷をのぞき込む参加者  
溪谷の縁の崖からは温泉の蒸気が出て入野が見えます。



## 神奈川県内自然保護ニュース

（このページに掲載する情報をお寄せください。）

## かながわエコ10フェスタ ブース出展

\*\*\* さとやま水族館 \*\*\*

1日目 平成30年5月26日（土）11時00分～17時00分

2日目 平成30年5月27日（日）10時00分～16時00分

主催 かながわ地球環境保全推進会議

例年、この時期県庁周辺で行われている行事です。  
今年の会場は、横浜公園のこの辺りです。



本協会は昨年「さとやま水族館」という名称で、生きたカエル類、アカハライモリやホトケドジョウを展示すると共に、オオキンケイギク、アメリカザリガニなど外来生物の展示もして啓発活動をしました。  
 子どもたちに、アメリカザリガニに触れる機会を作ったのは好評でした。  
 今年も同じように「さとやま水族館」第2回目を行います。  
 何が展示できるが、近くにしないとわかりませんが、楽しみにしてきていただければ幸いです。

現在スタッフが不足しています。一部の時間でも手伝って良いという方ご連絡下さい。

神奈川県自然保護協会からのお知らせ

2018年度（第15回）神奈川県自然保護協会総会議案書  
 （案）

第1号議案 2017年度事業及び決算報告（案）及び監査報告

2017年度事業報告

1 事業の成果

本協会は2015年50周年を迎え、行事を通してできた県内各地の団体とのつながりや、生物多様性ホットスポット選定の成果を生かして、県内生物多様性保全や、そのための啓発活動を更に発展させる取り組みを進めた。

2 事業内容

(1) 自然保護に関する普及啓発事業

ア シンポジウム・講演会開催事業

生物多様性ホットスポット保全やこれを阻害する要因である外来生物を題材に一般県民を対象に自然と人とのよりよい関わり方を探る啓発活動を行う。

- ・かながわの帰化植物事情 6月17日
- ・生物多様性保全と外来生物 2018年2月10日

イ かながわエコ10 2017啓発 ブース出展 県庁前 5月27日、28日

ウ 自然観察会・勉強会

- ・生物多様性ホットスポット対象の自然観察会・勉強会 あつぎこどもの森公園で7月16日に計画したが、申し込んだ参加者がなく実施できなかった。
- ・地形・地質観察会箱根火山2018年2月28日 講師 萬年一剛・神奈川県温泉地学研究所研究員 松島義章理事

エ 厚木市生物多様性地域戦略推進事業協働

厚木市が策定した「生物多様性あつぎ戦略」実施に当たり、さがみ自然フォーラム運営委員会を中心にその実施を協働で行う。

- ・さがみ自然フォーラム 会場 アミューあつぎ 2018年2月8日～12日

昨年同様、大学生の研究発表が多く加わったことと企業の参加があり、成果があった。

(内容)

県内活動団体からの報告	26団体
小学校	5校
高等学校	2校
大学	4校12テーマ
企業	4社

国・地方自治体	5団体
公的機関（3セク）	5団体

・シンポジウム

「考えよう…外来生物」  
 基調講演 村上雄秀氏(本会理事)

パネリスト

- 岸一弘氏 茅ヶ崎野外自然史博物館
- 勝呂尚之氏 神奈川県水産技術センター
- 葉山久世氏 カナダガン研究グループ
- 山口勇一 神奈川県植物誌調査会

参加者（入場者）数 総計1,000人  
 （内訳）

展示部門（2月8日～2月12日）	750人
シンポジウム（2月10日）	80人
活動発表会（2月11日）	100人
（2月12日）	70人

これに関して発表のレジュメ集60pを発行した。

・厚木市民向けに生物多様性を感じるエコツアー実施

4月4日 自然のめぐみ「川のめぐみにふれあおう」自然観察とタケノコ掘り・賞味  
 内水面試験場、広域水道企業団相模取水施設見学と川のめぐみ料理賞味。

・特定外来種対策 啓発活動

8月22日 ザリガニと遊ぼう  
 厚木中央公園で一般の子ども対象にザリガニ釣り、観察、啓発展示を行った。

・厚木市立妻田小学校ビオトープづくり（継続）

(2) 広報・刊行事業

ア 啓発誌発行事業 1

啓発誌「かながわの自然」67号 発行  
 本協会50周年と生物多様性ホットスポットが内容

イ 啓発誌発行事業 2

情報紙「ニュースレター」 89号から90号まで  
 2回ページ総計 本紙別冊併せて36ページ

ウ ホームページとメールマガジン

印刷物では行き渡らない情報発信の場として、ホームページの充実にも努めた。またニュースレター

の情報を補うために時宜に応じてメールマガジンを発行した。(No.36~43)

エ 県内の自然や、本協会の活動を広報するポスターの内容の充実を図り、機会を捉えて掲出した。

(3) 他の団体等との協働・連携や支援に係わる活動

ア さがみ自然フォーラム開催(再掲)

県内で野生動植物の保全再生活動を行う個人・団体、組織等の関係者が集まり、意見や情報の交換を行った。(厚木市との協働)

イ 専門家派遣事業

・厚木市 あつぎこどもの森公園 企画事業 各月第3土曜日ほか

・厚木市愛甲小学校 川の学習

6月20,21日 10月19,20日 2018年1月22,23日

・酒匂川のメダカと生息地を守る会 講演会

2018年2月25日

ウ 行事の後援・参加

・江ノ島モース祭(モース研究会:5月28日開催)

・川名自然フォーラム主催行事

・藤沢自然と親しむ会 10月15日

・あつぎミニ環境フェア 2018年3月3日

(4) 県内自然の諸問題に対する調査・研究

・神奈川県内、生物多様性ホットスポットプロジェクト

ホットスポットプロジェクトについては啓発活動に努めた。

(5) 行政への働きかけ・協働

神奈川県環境行政について、県民と担当部局の意見交換の場を設け、よりよい協働への機会を作る。

・浅羽副知事との懇談会

県内各地の問題を捉えて意見交換を行った。

8月10日

・神奈川県二ホンザル管理計画について、山田自然環境保全課長から説明を聞く 10月10日

(6) 2016年度・役員が協会代表として行政および他機関の役職についたもの。

(藤崎理事長)

・小網代の森保全対策協議会委員

・かながわ地球環境保全推進会議副会長

・丹沢大山自然再生委員会委員

(青砥副理事長)

・神奈川県環境審議会委員

・神奈川県環境農政局主管公共事業評価委員会委員

・水源環境保全再生かながわ県民会議委員

・かながわトラストみどり基金緑の募金運営協議会委員

・厚木市生物多様性あつぎ戦略推進委員

(山口理事)

・神奈川県愛鳥ポスターコンクール審査員

3 事務局体制

(運営組織)

活動の広がりに伴い作業量が多くなることに対応して、役員の役割分担を明確にするための組織体制の確立に努めた。

4 会議の開催

総会 6月17日 かながわ労働プラザ

理事会 6月総会以降 5月、11月の年2回開催に変更

11月14日定足数を満たさず流会

事務局会毎月 第2火曜日開催。

## 2017年度 収支決算書

2017年4月1日から2018年3月31日まで

特定非営利活動法人の名称

特定非営利活動法人 神奈川県自然保護協会

科 目	金 額 (円) ( )内数字は明細				備 考
	予算	予算補正後	決算	増減(△減)	
<b>I 収入の部</b>					
1 会費・入会金収入	580,000	580,000	565,000	△15,000	会費 内過年度分 ¥30,000-
2 (1) 事業収入	100,000	140,000	122,500	△17,500	
ア 自然観察会開催事業	(100,000)	(140,000)	(122,500)	(△17,500)	
(2) 受託金・補助金	496,800	496,800	496,800	0	
ア 受託金	(496,800)	(496,800)	(496,800)	(0)	厚木市:生物多様性戦略啓発事業
イ 補助金	(0)	(0)	(0)	(0)	
3 寄付金	60,000	100,000	128,277	28,277	内 書籍 ¥35,500-
4 神奈川県協賛金	230,000	230,000	230,000	0	
5 雑収入・源泉所得税預かり金	10,000	10,000	16,228	6,228	
6 事業費取崩	0	400,000	300,000	△100,000	
<b>今期収入合計(A)</b>	<b>1,476,800</b>	<b>1,956,800</b>	<b>1,858,805</b>	<b>△216,649</b>	
預かり金	82,000	82,000	83,000	1,000	18年度以降前受け会費他
前期繰り越し収支差額	217,670	217,670	217,670	0	
<b>収入合計(B)</b>	<b>1,776,470</b>	<b>2,256,470</b>	<b>2,159,475</b>	<b>△96,995</b>	
<b>II 支出の部</b>					
1 事業費	1,592,000	1,898,000	1,054,497	△537,503	
(1) 普及啓発事業	215,000	223,000	218,698	△155,517	
ア 講演会開催事業費	(5,000)	(0)	(0)	(0)	
イ シンポジウム開催事業	(100,000)	(100,000)	(90,888)	(△9,112)	
ウ 自然観察会開催事業	(80,000)	(90,000)	(95,053)	(5,053)	講師・スタッフ経費・バス借り上げ
エ 啓発ブース出展費用	(30,000)	(33,000)	(32,757)	(△243)	エコ10イベント出展料ほか経費
(2) 企画事業費	63,000	60,000	125,725	65,725	
ア 厚木市イベント	(60,000)	(60,000)	(125,725)	(65,725)	チラシ印刷、ポスターフレーム他

イ 保全事業	(3,000)	(0)	(0)	(0)	ビオトープ維持管理
(3) 刊行事業	740,000	984,000	998,422	14,422	
ア 啓発誌発行事業 1	(600,000)	(870,000)	(931,110)	(61,110)	神奈川の自然 67号未刊行
イ 啓発紙発行事業 2	(100,000)	(74,000)	(67,312)	(△ 6,688)	ニュースレター 75号～80号
ウ ホームページの運営事業	(80,000)	(40,000)	(0)	(△ 40,000)	ホームページサーバー管理料
エ その他印刷物作成	(0)	(0)	(0)	(0)	協会紹介パンフ 増刷
(4) 他団体との協働・支援	362,000	612,000	456,861	△155,139	
ア さがみ自然フォーラム	(350,000)	(600,000)	(444,861)	(△155,139)	協力者謝礼・レジューメ印刷他
イ 他団体会費	(12,000)	(12,000)	(12,000)	(0)	丹沢大山再生委員会。丹沢ボラネット
(5) 調査・研究費	35,000	19,000	15,000	△4,000	
ア 自然環境調査費	(20,000)	(4,000)	(0)	(△4,000)	ホットスポットワーク
イ 資料購入費	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(0)	日本自然保護協会
2 管理費	262,000	259,000	201,578	△57,422	
(1) 役員報酬	0	0	0	0	無償
(2) 事務局人件費	0	0	0	0	無償
(3) 備品費	50,000	50,000	0	△50,000	償却費積立延期
(4) 消耗品費	40,000	20,000	21,651	1651	事務用品・用紙・電池など
(4) 役務費	8,000	18,000	23,570	5,570	コピー代・宅配便送料他
(5) 交通費	40,000	40,000	40,000	0	交通費等立て替え弁償
(6) 通信費	20,000	31,000	26,800	△4,200	役員連絡・行事開催連絡・総会用はがきなど
(7) 会議費	100,000	90,000	84,558	△5,442	会議会場費・弁当代
(8) 雑費・源泉所得税納入	4,000	10,000	4,999	△5,001	講師謝礼源泉徴収税支払い他
3 事業積立金	0	0	0	0	
4 前受け会費	15,000	15,000	83,000	68,000	次期預かり金へ
5 予備費	84,470	84,470	0	△84,470	
当期支出合計(C)	2,136,285	2,256,470	2,099,284	△157,186	
当期収支差額(A) - (C)			△240,479		
次期繰越収支差額(B) - (C)			60,191		

### 財産目録 2018.3.31

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	△ 59,054	
普通預金 横浜銀行	56,680	
普通預金 スルガ銀行	56,318	
通常貯金 ゆうちょ銀行	84,247	
振替口座 ゆうちょ銀行	5,000	
事業積立		
定額貯金 ゆうちょ銀行	1,982,000	
定期預金 スルガ銀行	200,000	
備品償却積立		
定額貯金 ゆうちょ銀行	450,000	
定期預金 スルガ銀行	190,068	
流動資産 計		2,965,259
2 固定資産		
備品	40,000	
固定資産 計		40,000
資産合計		3,005,259
II 負債の部		
1 流動負債		
前払い会費預かり金	83,000	
未払い金	0	
短期借入金	59,054	
流動負債 計		142,054
2 固定負債		
長期借入金	0	
固定負債 計		0
負債合計		142,054
正味財産		2,863,205
昨年(3,302,133)比		△ 438,928

(監査報告) 未

## 第2号議案 2018年度 事業計画及び予算(案)

### 2018年度 事業計画(案)

#### 1 事業活動方針

本協会は諸活動・行事を通してできた県内各地の団体とのつながりを更に発展させる方向で、生物多様性ホットスポット選定の成果を生かし、県内生物多様性保全や、そのための啓発活動を更に発展させる取り組みを進める。

#### 2 事業内容

##### (1) 自然保護に関する普及啓発事業

神奈川の自然を理解し健全な自然の保全・再生を旨とし、これを阻害する要因である外来生物も対象に一般県民に自然と人とのよりよい関わり方を探る啓発活動を行う。

ア シンポジウム・講演会開催事業

- ・生物多様性の保全と再生に関する講演会  
2019年2月10日予定
- イ かながわエコ10 2018啓発 ブース出展  
5月26日、27日 日本大通り
- ウ 自然観察会  
生物多様性ホットスポット対象の自然観察会・勉強会シリーズ。  
第1回 江の島 6月9日(土)  
第2回 あつぎこどもの森公園 秋 日未定  
他 随時  
地形・地質観察会 2018年3月頃
- エ 厚木市生物多様性地域戦略推進事業協働  
厚木市が策定した「生物多様性あつぎ戦略」実施に当たり、さがみ自然フォーラム運営委員会を中心にその実施を協働で行う。  
・さがみ自然フォーラム  
2019年2月7日～11日  
・厚木市民向けに生物多様性を感じるエコツアー実施 海のみぐみ発見ツアー 日時調整中  
・特定外来種対策 啓発活動及び市民向け自然観察会と除去作業  
・他
- (2) 広報・刊行事業  
ア 啓発誌発行事業 1  
啓発誌「かながわの自然」68号  
(案) 特集 海岸の保全と再生  
イ 啓発誌発行事業 2  
情報紙「ニュースレター」  
NPOとしての活動に関する広報  
行事に関する広報/県内の自然保護の動きに関する情報/神奈川県環境行政の動向に関する広報  
など隔月を目標に発行する。
- ウ ホームページの運営  
印刷物では行き渡らない情報発信の場として、ホームページの充実努める。
- エ かながわの自然保護の新しい状況を伝えるメールマガジン 発行随時
- オ 県内の自然や、本協会の活動を広報するポスターの内容の充実を図り、機会を捉えて掲出する。
- カ その他必要に応じて、協会紹介パンフレットづくりなど行う。
- (3) 他の団体等との協働・連携や支援に係わる活動
- ア さがみ自然フォーラム開催(再掲)  
県内で野生動植物の保全再生活動を行う個人・団体、研究者、組織等の関係者が集まり、意見や情報の交換を行う。(厚木市との協働)  
・日時2019年2月7日～11日  
・会場 厚木市市民活動プラザ(アミュー厚木)  
県内活動団体からの報告  
小中学校の活動報告  
高校生・大学生・研究者による発表  
ポスター展示及びポスターセッション・ステージ発表  
自然の保全と再生をテーマとした講演会
- イ 専門家派遣事業  
・内容 協会会員のうちで自然に関する各分野の専門家を、必要とする団体等に対し指導・協力者として派遣・及び機材の貸し出しをする。  
ほか
- ウ その他 必要な活動
- (4) 県内自然の諸問題に対する調査・研究  
・神奈川県内、生物多様性ホットスポットプロジェクト  
選定したスポットの追加、発展作業  
外来生物調査  
・他 自然全般
- (5) 行政への働きかけ・協働  
・神奈川県環境行政について、県民と担当部局の意見交換の場を設け、よりよい協働への機会を作る。  
・県内各地で起きる自然破壊、自然保護上の問題に対する要望、意見書の提出。

### 3 事務局体制

- ・資料印刷・現金出納・行事実施など協力者募集
- ・ホットスポット、環境教育など部会を組織し理事も事情が許す限り、運営メンバーとして参加し実行体制の強化にかかわる。

### 4 会議の開催

- 総会 6月16日 13:30 神奈川県立歴史博物館  
理事会 年2回  
運営委員会、各部会など随時  
原則誰でも参加自由、開催日時はメールマガジンで広報する。

## 2018年度予算(案)

( )内数字は明細

科 目	金 額 (円)		備 考
	前年度実績	本年度予算	
<b>I 収入の部</b>			
1 会費収入	565,000	580,000	15,000
2 (1) 自然保護に関する普及啓発事業	122,500	60,000	△62,500
ア 自然観察会開催事業	(125,000)	(60,000)	(△62,500) 参加費(交通費の他1名1,000円)
(2) 受託費・補助金	496,800	496,800	0
ア 受託金	(496,800)	(496,800)	(0) 厚木市 生物多様性戦略事業費
イ 補助金	(0)	(0)	(0)
3 寄付金	128,277	150,000	21,723
4 神奈川県協賛金	230,000	230,000	0
5 雑収入・源泉所得税預かり金	16,228	10,000	△6,228
6 前期末収金	0	0	0
7 事業積立取り崩し	0	0	0
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>1,858,805</b>	<b>1,526,800</b>	<b>△332,005</b>
預かり金(前受け会費)	83,000	1,000	82,000 差額は本年度会費に組み入れ

前期繰り越し収支差額	217,670	60,191	△157,479
収入合計(B)	2,159,475	<b>1,587,991</b>	△571,484

II 支出の部			
1 事業費	1,814,706	<b>1,297,000</b>	360,503
(1) 自然保護に関する普及啓発事業	218,698	120,000	△98,698
ア 講演会開催事業費	(0)	(30,000)	(30,000)
イ シンポジウム開催費	(90,888)	(0)	(△90,888)
ウ 自然観察会開催事業	(95,053)	(60,000)	(△35,053)
エ 啓発ブース出展費	(32,757)	(30,000)	(△2,757)
(2) 企画事業費	125,725	63,000	△45,725
ア 厚木市イベント	(125,725)	(60,000)	(△45,725)
イ 保全事業	(0)	(0)	(0)
(3) 刊行事業	998,422	610,000	△388,422
ア 啓発誌発行事業 1	(931,110)	(500,000)	(△431,000)
イ 啓発紙発行事業 2	(67,312)	(50,000)	(△17,312)
ウ ホームページの運営事業	(0)	(60,000)	(60,000)
エ その他印刷物作成事業	(0)	(0)	(0)
(4) 他団体との協働・支援	456,861	462,000	5,139
ア さがみ自然フォーラム	(444,861)	(450,000)	(5,139)
イ 他団体協賛金	(12,000)	(12,000)	(0)
(5) 研究調査費	15,000	25,000	10,000
2 管理費	201,578	<b>251,000</b>	49,422
役員報酬	0	0	0
事務局人件費	0	0	0
備品費	0	50,000	50,000
消耗品費	21,651	30,000	8,349
役員費	23,570	20,000	△3,570
交通費	40,000	40,000	0
通信費	26,800	20,000	△6,800
会議費	84,558	85,000	442
雑費・源泉所得税支払い	4,999	6,000	1,001
3 事業積立金	0	0	0
4 前受け会費	83,000	<b>1,000</b>	△82,000
5 予備費	0	<b>38,991</b>	38,991
当期支出合計(C)	2,099,284	<b>1,587,991</b>	△511,293

神奈川の自然 在庫 260冊

### 第3号議案 定款変更に関する件

平成28(2016)年6月7日に特定非営利活動促進法が一部改正され、平成30(2018)年10月1日から貸借対照表の公告が義務づけられることになりました。従って本協会の貸借対照表の公告に係る定款変更が必要となります。

定款の変更については、総会の議決が必要であることから以下の様に変更することを提案します。(変更部分下線)

#### 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第55条 協会の公告は、協会の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法28条の2第1項に規定する貸借対照表に関する公告については、この法人のホームページに掲載して行う。

附則追加

8 この定款は、2018年10月1日から施行する。

### 会費納入状況について

封筒に貼ったシールでお知らせしています。

ヤマト運輸 DM 敏では請求書の封入が禁止されているためです。ご理解ご協力をお願いいたします。

財政の事情によりニュースレターの発行を少なくしています。別冊もしばらく休止します。

メールアドレスが分かる方には、別途通信をお送りしています。届いていない方アドレスをお知らせください。

## ニュースレター 91号

2018年5月23日発行

特定非営利活動法人

〒243-0816 厚木市 林 5-15-10 青砥方

**神奈川県自然保護協会**

TEL&FAX 046-222-2356

<http://www.eco-kana.org>

Eメール: nacs-kana-office01@eco-kana.org

郵便振替口座 00230-0-112653 銀行からの振り込みは ゆうちょ銀行(9900) 029 (セコキョウ)店 当座 0112653